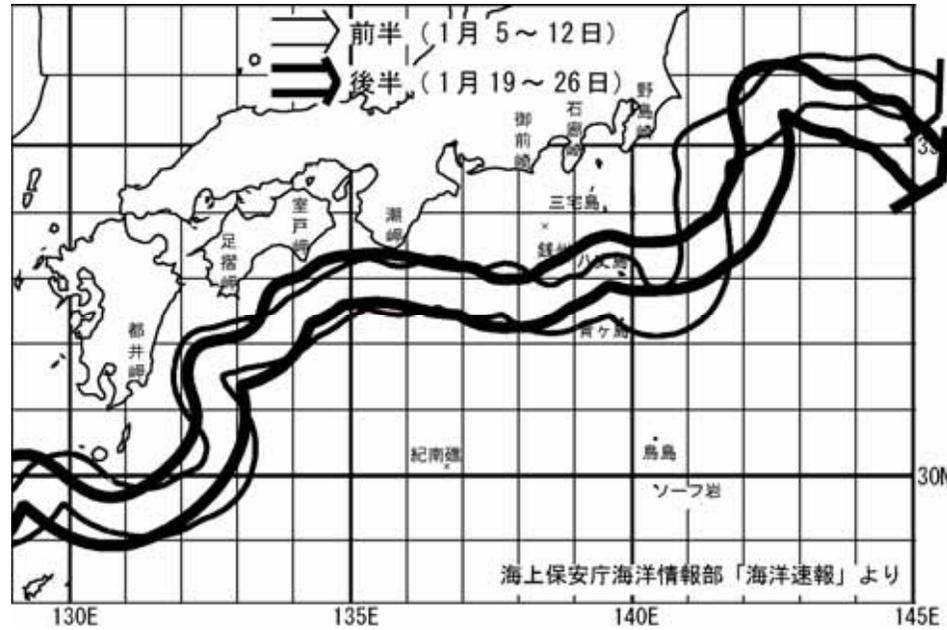


漁海況月報

平成28年1月1日

No. 1 ~1月31日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



1月定地水温の旬平均値(°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	18.2	18.3	18.0	16.4	17.2	16.9	14.1
	2.9	2.4	2.8	0.8	1.6	2.2	1.0
中旬	16.3	16.2	15.7	14.7	14.7	15.0	12.4
	1.4	0.8	1.1	-0.4	-0.3	0.7	0.1
下旬	14.5	14.9	14.7	14.2	13.0	13.5	10.6
	0.1	0.0	0.4	-0.5	-1.5	-0.5	-1.3
月	16.3	16.4	16.1	15.0	14.9	14.9	12.3
	1.4	1.0	1.3	0.0	-0.1	0.6	-0.1

【黒潮流路】

前半の黒潮は、遠州灘沖の33°N付近を東南東に進み、八丈島の北側を通過した後小蛇行して、房総半島に向けて北上した。後半は、遠州灘沖の33°N付近を東南東に進んだ後伊豆諸島の西側から東北東に向かい、八丈島と三宅島の間を通過した。その後、142E付近を北に向かった。

【県下沿岸域】

上旬は、相模湾側では「かなり高め」～「高め」、駿河湾では「高め」～「やや高め」であった。中旬は、相模湾側では「やや高め」、駿河湾東部では「平年並」、駿河湾西部では「平年並」～「やや高め」であった。下旬は、相模湾側では「平年並」、駿河湾東部では「平年並」～「低め」、駿河湾西部では「やや低め」であった。

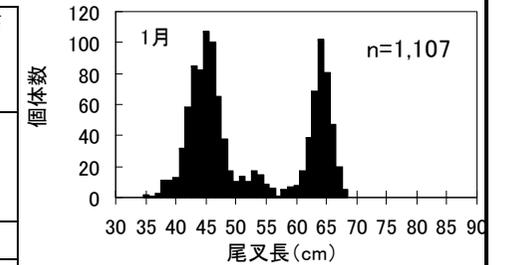
【竿釣カツオ】

1月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は49トンで、前年同期の104%であった。水揚げの全量が近海船によるもので、沿岸船の水揚げがなかった。魚価は349円/kgで、前年同期を下回ったが、過去5年平均を上回った。

漁場は26~27°N、140~150°Eの西之島付近や、さらに南方の17~18°N、136~140°E付近を中心に、尾叉長45cmモードの小カツオと64cmモードの大カツオを漁獲した。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
28年1月上旬	-	-	-	-
中旬	8	1	7.8	467
下旬	41	4	10.4	327
28年1月計	49	5	9.8	349
27年1月計	47	2	23.5	434
26年1月計	-	-	-	-



御前崎港における測定結果

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は201トンで前年の同漁場の水揚量(355トン)の0.57倍であった。また、1か統あたりの水揚量は50.2トンで前年(88.6トン)の0.57倍、平年(昭和57~平成26年の平均35.4トン)の1.42倍であった。

魚種別の水揚量は、サバ類、スルメイカ、メアジ、マルソウダ、アカカマス順に多かった。7か統のうち、サバ類は北川漁場が39%、次いで富戸漁場が27%を占めた。スルメイカは北川漁場が77%、次いで古網漁場が10%を占めた。メアジは川奈漁場が91%と大部分を占めた。マルソウダは古網漁場が83%、北川漁場が10%を占めた。アカカマスは古網漁場が57%、伊豆山漁場が42%を占めた。

なお、メアジは前年比60.7倍、平年比7.9倍、マルソウダは前年比78.5倍、平年比14.4倍、アカカマスは前年比8.2倍、平年比16.0倍、モロは前年比491.5倍、平年比21.1倍、オアカモロは前年比2,000倍、平年比7.6倍と、特異的に漁獲量の多い魚種が目立った。一方、スルメイカについては、前年比0.2倍、平年比0.5倍と低調な漁獲であった。ブリ(ぶり銘柄)は前年比0.7倍で前年を下回ったが、平年比0.9倍と、ほぼ例年並みの漁獲であった。

漁場別の水揚量では、北川漁場が75.4トン(サバ類、スルメイカ、モロなど)、富戸漁場が34.2トン(サバ類、オアカモロ、スルメイカなど)、川奈漁場が33.6トン(メアジ、サバ類、ブリなど)の順に多かった。

<参考表> 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
サバ類	103.3	2.5	2.2	北川、富戸、川奈
スルメイカ	33.5	0.2	0.5	北川、古網、伊豆山
メアジ	13.4	60.7	7.9	川奈
マルソウダ	10.0	78.5	14.4	古網、北川
アカカマス	7.4	8.2	16.0	古網、伊豆山

[サバたもすくい棒受網]

小川港への棒受網による水揚げは、17日のみであり、その後は全船がたもすくいによる水揚げを行った。水揚量はマサバ104トン(前年同月比362%)、ゴマサバ84トン(前年同月比21%)であり、1隻あたり水揚量はマサバ14.8トン(前年同月1.5トン)、ゴマサバ12.0トン(前年同月21.2トン)であった。1kgあたり平均単価はマサバ203円で前年同月(409円)を下回った。ゴマサバは92円で前月(83円)を上回り、前年同月(120円)を下回った。

たもすくいで漁獲されたマサバは36cmモード、ゴマサバは30cmモードであり、漁場は三本に形成された。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
28年1月上旬	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中旬	0	74	1	3	0.1	24.8	436	88	三本
下旬	103	9	2	4	25.8	2.3	202	119	三本
28年1月計	104	84	3	7	14.8	12.0	203	92	三本
27年1月	29	403	6	19	1.5	21.2	409	120	三宅、三本
26年1月	0	286	5	9	0.0	31.8	193	101	三宅、三本、御蔵

- * 水揚量は、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。
- * 表中の「-」は漁獲がなかったことを示す。
- * 年齢査定はサンプルが少なかったため、行っていない。

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が161kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が448kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は328kgと前年同期386kgの85.0%、平年同期(過去5か年平均:362kg)の90.6%で前年同期、平年同期を下回った。また、総水揚量は119.4トンで前年同期(72.1トン)の165.6%、平年同期(67.9トン)の175.8%で前年同期、平年同期を上回った。平均単価は685円/kgで前年同期(485円/kg)、平年同期(462円/kg)を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新居	0.9	1	2	464	791
舞阪	39.6	4	90	440	606
福田	41.4	4	76	545	555
御前崎	13.1	4	44	297	687
吉田	16.2	4	72	225	868
静岡	8.2	4	80	103	1,367
平成28年1月計	119.4	21	364	328	685
平成27年1月計	72.1	16	187	386	485
平成26年1月計	35.2	16	254	138	1,026

- *各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。
- *平年同期:過去5か年(平成23~27年)平均値

[まき網]

マイワシの水揚げは小川港で279.7トンと平年同期(25.9トン)の1,079.9%、沼津港は227.5トンで平年同期(100.7トン)の225.9%、伊東港は水揚げがなかった(平年同期107.2トン)。カタクチイワシの水揚げは小川港、沼津港ともに無かった。伊東港は3.6トンであった。

なお、伊豆東岸定置網8か統は、マイワシ0.1トン、カタクチイワシは無かった。
*平年同期:過去5か年(平成23~27年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

1月 5日	1月 7日	地先定線観測調査	(3日間)
1月 12日	1月 13日	ふぐ稚魚調査(TBCネット)	(2日間)
1月 14日	1月 15日	いわし・しらす類卵稚仔分布調査(丸稚ネット)	(2日間)
1月 21日 ~	1月 22日	いわし・しらす類卵稚仔分布調査(丸稚ネット)	(2日間)
1月 26日	1月 27日	サクラエビ資源量調査(MOHTネット)	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

